

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2010年

No. 6

福岡町つくりもんまつり

今年も、「福岡町つくりもんまつり」が、盛大に行われました。毎年、県内外の観光客の方が、福岡町を訪れます。保存会では、昨年同様、つくりもんまつりにあわせて、JR福岡駅構内で、九月十五日（水）～二十四日（金）までの十日間、菅笠の展示を行いました。



今回は、新たに菅笠製作過程や、実際に福岡町内で、使用されている菅笠の写真も飾りました。たくさんの方が、その展示に足を止め、見入っておられました。

スゲの植え付け

九月二十二日（水）加茂地区の高田さん宅は、平成二十三年度の用のスゲの植付日でした。

泥沼化されたスゲ田には、腰痛と、膝痛をかばいながら、後ずさりでも植付され、「自分が出る間、なんとか頑張りますちやく」と、笑って話す高田さん。

相互依存する菅笠づくりは、危機と向き合っており、保存継承対策を急務としております。

ご理解のある方、ご協力いただける方は、保存会まで、ご連絡下さい。

TEL (六四一) 五三三三



売上金寄付

福岡地域の有志の方々より、当保存会へ、二万四百円の寄付をいただきました。

昨年九月に「菅笠地蔵カンパツジ」を作成され、駅中のお待ち堂や、Uホール・雅楽の館などで販売された売上金です。

去る九月二十二日（水）、木村会長が、有志代表の佐野隆一さんから、売上金をお預かりしました。今後、より一層の普及活動に努めたいと思います。ありがとうございました。



まなびっこフェスティバル

十月九日（土）、高岡二上まなび交流館で、「まなびっこフェスティバル」が開催されました。保存会では、六名の笠縫技術者の方のご協力を頂き、ミニ管笠づくりを実施しました。

他にもいろいろな体験コースがありました。管笠縫いは、子供達にとっては初体験であり、長い針にとまどいながらも仕上がった笠を手にし、満足な表情を見せていました。



スポレクとやま2010

十月十六日（土）から四日間、スポレクとやま2010が、開催され、福岡町のUホールは、ラージボールの会場となり、県内外からたくさんの方が選手が、競い合いました。

保存会では、Uホールエントランスで管笠の製作実演を行いました。試合の合間には、選手やコーチそして、関係者の方々から熱心な問いかけもあり、交流が広がりました。この実演によって、「福岡町の管笠」を印象づけられたことでしょう。



笠縫技術者ご紹介

小西^{コニシ} こゆり さん

大正六年九月十日生（九十三歳）

小西さんが、編んでおられたのは、ミニ草履。鮮やかな鼻緒の色が、かわいらしさを引き立っています。

二十年前、仕事を辞めて家にいるようになったから、笠に必要な丸輪（五徳）を始めたのがきっかけで、わらじや草履を編むようになったそうです。

当時は、友人と試行錯誤しながら、自分のやり方を確立したということです。小西さんは、「なかなか自分の思う通りの商品にならないこともある。こんな風になってくれればいいと、イメージしながら、作っている」と控え目な語り口。

口が開かないよう、最後の締め付けに力の加減が重要となってきます。一足作るのに約二十分。九十三歳には、見えない程、素早い編み方です。

仕事が、楽しみだという小西さん。これからも、頑張ってください。

